



第 17 期：令和 7 年度事業報告

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日



I. 経緯	P—2
1. 事業活動報告・資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表 事業種別利用状況	3
II. 実施事業	6
(1) 障害者福祉サービス介護保険に係る事業	
1. 『障害スポーツに関する研究・普及ならびに支援事業』	6
1-1. 障害者スポーツ団体組織化および運営支援事業	6
1-2. 障害者スポーツ研修会・大会への参加	6
2. 『障害者（児）および高齢者のデイサービス事業』	7
2-1. 日中活動系サービス事業（アス・ライフ）	7
2-2. 就労移行・就労継続事業（アス・ワーク）	10
2-3. 放課後等デイサービス事業（なかぞのフォア・アス）	12
2-4. 放課後等デイサービス事業（おおいちフォア・アス）	15
2-5. 放課後等デイサービス事業（みらいフォア・アス）	18
2-6. 介護保険通所介護・介護予防通所介護事業（大市デイサービスセンター）	22
3. 『障害者（児）および高齢者の居宅訪問介護サービス事業』	25
3-1. 居宅介護事業（アス・ヘルパーステーション）	25
3-2. 訪問介護事業（アス・ヘルパーステーション）	26
4. 『障害者についての啓発に関する事業』	29
4-1. 講師派遣事業	
III その他の社会貢献	29
(1) 介護等体験実習生の受け入れ	
(2) ボランティアの受け入れ	
(3) ボランティアの参加及び行事協力	
VI 虐待防止委員会	30
(1) 虐待防止委員会の開催	
V 法人の運営に関する事項	30
(1) 令和5年度理事会・評議員会の開催	

I 経緯

平成 16 年 2 月 17 日、特定非営利活動法人の認証を受け、「アス・ライフサポート」として事業を開始した。同年 7 月に支援費制度（当時）事業、8 月に介護保険事業を開始した。

平成 21 年 7 月 8 日、山口県より社会福祉法人の認可を受け、翌年、施設整備補助金を活用し駅通りにて施設新築工事を実施した。完成後の平成 22 年 4 月 1 日付で、すべての事業を NP0 法人アス・ライフサポートから社会福祉法人アス・ライフへ継承した。

平成 23 年度には、放課後等デイサービス「なかぞのフォア・アス」を基盤整備補助金により全面改装し、バリアフリー化を実施した。

平成 24 年度には、多機能型アス・ライフ（山口市駅通り）内に就労移行支援事業所を開設し、定員 6 名で事業を開始、2 年目には定員を 12 名に増員した。また、同年 12 月には介護保険通所介護事業「大市デイサービスセンター」を所在地（山口市大市町 1-28）へ新築移転した。

平成 27 年 4 月 1 日には、施設整備補助金の交付を受け、就労移行支援および就労継続支援 B 型事業所「アス・ワーク」を宮島町に新築移転し、就労部門を独立させた。

平成 28 年度には、要望の多かった放課後等デイサービス「おおいちフォア・アス」を開設し、続く平成 29 年度には「みらいフォア・アス」を開設した。その後、平成 30 年 3 月にみらいフォア・アスを大市町山中ビル 2 階へ移転した。

令和 3 年 11 月には、創業当初より賃借していた山中ビルを取得し、増改築を実施した。令和 4 年 1 月には「なかぞのフォア・アス」移転先として富田原町の土地を取得し、令和 6 年度に新施設が完成、同年 7 月 1 日に開所式を開催し新たな一步を踏み出した。

令和 7 年度は、長年務めた管理者 2 名が前年度末付けの退任に伴い、新体制でのスタートとなった。厳しい年度ではあったが、2 年目となる令和 8 年度のさらなる発展が期待される。

今後も、利用者一人ひとりが生き生きと希望を持って生活できるというアス・ライフの理念の実現に向け、職員一同が協力し、利用者に寄り添った支援を継続していくことが重要である。また、社会福祉法人としての社会的責任である継続的・永続的なサービス提供を果すため、今後も様々な課題に対し職員一丸となって取り組んでいく必要がある。引き続き経営改善に努めていく所存である。



令和 7 年度忘年会 （かめ福）

【事業活動報告】

多機能型事業所アス・ライフでは、新卒対象利用者との契約はなかったものの、中途契約が3名あった。しかし、他事業所への入所や利用者の退所に加え、冬場にはインフルエンザ感染拡大の影響による欠席が相次ぎ、利用実績は大きく落ち込み、今年度計画には及ばなかった。利用者数の減少により、生活介護の年間利用延減少人数は357名となり、生活訓練を合わせると延人数は415名と減少した。また、生活介護、生活訓練及び共生型生活介護事業を合わせた全利用者の1日平均利用者数は16.6名となり、前年の17.8名（1.2名減少）、前々年度の19.0名（2.4名減少）と減少傾向が続いている。

一方で、人件費は増加しており、収益は前年度を大きく下回る結果となった。なお、中期計画における今年度の達成率は69.1%（目標24名）であった。

就労事業所アス・ワークでは、昨年10月1日付でニーズの少ない就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型事業のみで新たにスタートした。

事業を一本化したことにより、利用者への支援方法の統一や職員の業務分担の明確化を図り、支援体制の充実と経費削減の両面に努めた。また、大きな災害や集団感染もなく、利用者に安定して利用していただくことができ、作業面においても大きなトラブルはなく、年間を通して安定した運営を行うことができた。

しかし、退所者があったことなどから、1日平均利用者数は前年度の11.9名に対し、今年度は10.9名と1.0名減少した。さらに、人件費の増加もあり、決算は赤字となった。なお、中期計画における今年度の達成率は68.1%（目標16名）であった。

なかぞのフォア・アスでは、今年度も13名（前年度9名）の新規利用児童を受け入れた。昨年度に引き続き、支援マニュアルを年6回全職員で確認するとともに、「支援シート」を作成し、安全に子どもたちが過ごせるよう情報共有を図った。

また、保護者に対しては、送迎時の引継ぎや連絡帳の活用、個別支援計画見直し時の面談、担当者会議への出席などを通して、支援内容の確認と共有を行った。さらに、近隣専門学校の学生アルバイトも増え、安全な環境のもとで子どもたちへの支援を行うことができた。

おおいちフォア・アスは開設10年目を迎えた。子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを大切にしながら、創作活動や遊びを提案・実施し、一人ひとりに合わせたスケジュールを立案して支援を行った。

一方で、学年が上がり地域活動へ参加する児童が増えたことによる退所もあり、加えて、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の影響も継続し、利用者の欠席が多い状況であった。また、学校生活に不安を感じ欠席する児童も多く見られた。その結果、年間延利用者数は前年度より216名減少した。

みらいフォア・アスは開設7年目を迎えた。中高生を対象とした事業所として、卒業後の進路につながる活動を積極的に取り入れ、将来を見据えた生産活動やアス・ワークでの体験活動等を継続して実施した。

また、みらいフォア・アスでの土曜日営業を中止し、おおいちフォア・アスへ一本化することで、運営の効率化を図った。さらに、なかぞのフォア・アス及びおおいちフォア・アスからの移行児童もあり、年間利用者延人数は前年度より329名増加した。

放課後等デイサービス部門における3事業所の中期計画に対する今年度の達成率は、「なかぞのフォア・アス」が88.8%（目標12.5名）、「おおいちフォア・アス」が79.8%（目標10.5名）、「みらいフォア・アス」が95.4%（目標9.0名）であった。
また、3事業所全体の目標達成率は88.3%であった。

介護保険部門の大市デイサービスセンターでは、新たに社員2名を迎えたことで、サービス提供時間の拡充や支援内容の見直しを行うことができた。サービス提供時間を増やしたことにより売上増につながり、また、利用者と関わる時間を増やし、個別機能訓練を充実させることで、利用者満足度の向上を図ることができた。

職員体制が整ったことで受け入れ人数も着実に増加していたが、利用者の入所や入院等により利用率は安定しなかった。また、感染症による臨時休業もあり、不安定な1年となった。
一方で、情報共有を徹底することで、職員同士が互いに声を掛け合い、コミュニケーションの機会を増やすことができた。年間利用者延人数は前年度より128名増加したものの、1日平均利用者数は10.0名となり、中期計画目標（12名）に対する達成率は83.3%であった。

ヘルパーステーションでは、人事異動により新たな正職員3名、パート職員18名の体制でスタートした。長年にわたり多くの障害福祉サービスを利用されていた利用者が令和6年度に逝去されたことにより、今年度の年間延訪問回数は687件減少した。一方で、居宅訪問件数を増やすため、相談支援専門員やケアマネジャーへの営業活動を行った成果もあり、利用者の紹介は少しずつ増加してきた。特に、高齢者訪問における要支援者の紹介が多く見られた。

法人としては、長年管理者として携わってきた職員2名の退任に伴い、新体制でのスタートとなった。また業績面では、成績を伸ばした事業所が3事業所あった一方で、4事業所が減収となるなど、厳しい1年間であった。

現体制2年目となる令和8年度は、今年度の結果と経験を生かし、経営目標の達成に向けて取り組んでいきたい。

【資金収支計算書】

当法人の令和7年度における資金収支は、事業活動による収入279,049千円、支出268,897千円を計上し、その結果事業活動資金収支差額10,151千円となった。

施設整備等による収入は設備資金等補助金とその他施設整備等により7,667千円、支出は施設資金借入金元金償還支出及び固定資産取得支出等で28,943千円、その結果施設整備等資金収支差額△21,275千円となった。

その他の活動による収入は運転資金借入の実行で40,000千円、支出では長期運営資金借入金元金償還で24,348千円となりその他活動資金収支差額は15,651千円となった。
その結果、当期資金収支差額は、4,527千円、当期末支払資金残高は49,386千円となった。

（資料1 決算報告書：資金収支計算書資料P3 参照）

【事業活動計算書】

当法人の令和7年度におけるサービス活動による収益は、主に障害福祉サービス・介護保険

事業の増収により対前年 7,737 千円の増収により 278,295 千円となった。費用については、人件費と減価償却費の増加があり、対前年度 15,627 千円増加の 276,705 千円となった。

よって、当期サービス活動増減差額は前年度 9,479 千円に対して 1,589 千円と 7,889 千円減少となったものの、僅かながら黒字決算で終えることができた。

(資料 1 決算報告書：事業活動計算書資料 P4 参照)

【貸借対照表】

貸借対照表の資産の部の流動資産は、対前年度 6,517 千円増加の 70,554 千円となった。固定資産は対前年度 7,160 千円増加し、390,434 千円となった。

基本財産は、対前年度より 9,928 千円減少の 342,629 千円となった。その他の固定資産は、対前年度 2,768 千円と増加し 47,804 千円となった。これにより資産の部の合計は対前年度 642 千円減少し、460,988 千円となった。

負債の部の流動負債は、対前年度 22,310 千円増加し 72,818 千円となった。固定負債は、対前年度 18,802 千円減少し 220,586 千円となった。これにより負債の部の合計は対前年度 3,507 千円増加し 293,404 千円となった。

よって、純資産は、国庫補助金等特別積立金の取崩による減少もあり、対前年度 4,150 千円減少し 167,583 千円となった。

(資料 1 決算報告書：貸借対照表資料 P5 参照)

【事業種別利用状況】

述べ利用者数（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月、単位：名）については、各部門の事業報告を参照のこと。

- アス・ライフ（生活介護・生活訓練）……………P 7-8 参照
- アス・ワーク（就労継続支援 B 型・就労移行）……………P10 参照
- 放課後等デイサービス事業 なかぞのフォア・アス……………P13 参照
- 放課後等デイサービス おおいちフォア・アス 1 F……………P15 参照
- 放課後等デイサービス みらいフォア・アス（おおいちフォア・アス 2 F）……………P18-19 参照
- 大市デイサービス（介護保険通所介護・介護予防通所介護事業）……………P22-23 参照
- アス・ヘルパーステーション（居宅介護事業（障害者自立支援））
 - ・居宅介護……………P25 参照
 - ・重度訪問介護……………P25 参照
 - ・同行援護……………P25 参照
 - ・移動支援事業（地域生活支援事業）及び同行援護事業……………P26 参照
- アス・ヘルパーステーション（介護保険・介護予防）
 - ・訪問介護……………P27 参照

Ⅱ 実施事業報告

(1) 障害者福祉サービス・介護保険に係る事業

1. 【障害者スポーツに関する研究・普及ならびに支援事業】

1-1

事業名：障害者スポーツ団体組織および運営支援事業

概 要 山口県ボッチャ協会の事務局を山口市大市町3番12号 社会福祉法人アス・ライフ本部内に設置しており、利用者さんの組織運営の協力及び場の提供をするなど、令和7年度も期を通して支援を行った。利用者も地方大会・全国大会に積極的に参加した。



米子ボッチャ大会の様子

1-2

事業名：障害者スポーツ研修会・大会への参加

概 要

今年度もイベントや大会など県内・県外遠征に数多く同行や移動支援を実施した。

- ・ 山口県キラリンピック全国障害者スポーツ大会選考会ボッチャの部
令和7年 5月 6日 山口県身体障害者福祉センター
- ・ 第10回福岡ボッチャフェスタ パラボッチャ大会
令和7年 5月 11日 福岡市立障がい者スポーツセンター
- ・ 広島ボッチャ交流大会
令和7年 5月 31日 スポーツ交流センターおりづる
- ・ 第27回日本ボッチャ選手権西日本ブロック予選大会
令和7年 6月 6日
～ 8日 スカイホール豊田（豊田市総合体育館）
- ・ 2025 米子ロータリークラブカップボッチャ大会
令和7年 11月 8日 鳥取県立武道館
- ・ 第1回 SAGA パラスポ全国ボッチャ大会
令和7年 8月 23日
～ 24日 吉野ヶ里町文化体育館
- ・ 第5回ボッチャオープンチャンピオンシップ
令7年 9月 26日
～ 28日 カルッツ河崎
- ・ 下関ボッチャ交流大会
令和7年 12月 21日 J:COM アリーナ下関

- ・第 60 回山口県スポーツ・リクレーションフェスティバル
令和 7 年 10 月 19 日 ゼオンアリーナ周南
- ・山口県ボッチャ交流大会 競技の部 レクレーションの部
令和 8 年 2 月 14 日 大晃アリーナ

・その他定期練習、第 2 日曜日の合同練習等の支援を行ってきた。

2. 【障害者（児）および高齢者のデイサービス事業】

2-1

事業名：日中活動系サービス事業（アス・ライフ 生活介護・生活訓練）

1 概要 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する為の法律（障害者総合支援法）に於いて、日中活動系サービスとして位置付けられるサービスを以下の通り行った。常時介護を必要とする障害者の方が入浴・排泄・食事等の介護支援を受けながら、自ら興味関心のある創作活動やスポーツレク、作業活動等に取り組んでいる。デイ活動を通して人との関わりを楽しみ学び合いながら、日々の生活が充実するように進めてきた。デイルームフロアは 2F と 3F であり、障害特性に配慮して安心して過ごせるスペースを確保できるよう努めている。

- ① 以前より中長期的事業戦略として、障害種別（肢体不自由者・知的障害者・中途障害者等）に偏らず、発達障害者（知的障害を伴う自閉症等）の受入可能とする施設環境の改善及び職員の支援強化（正職員・パート職員）の増員を進めてきた。
また重度肢体不自由者（医療的ケアを必要とする利用者）のデイサービスを充実し、安心・安全に利用できるよう看護師配置も行っている。
- ② 近隣の支援学校（山口総合支援学校・山口大学附属総合支援学校）の全学年の現場実習を積極的に受け入れ（山総 累計 7 名 山大附属 累計 2 名）、また他施設利用者の体験利用を行うも、新卒対象者及び体験者の新規契約はなかった。
- ③ 中途利用者は令和 8 年 1 月に女性 1 名、2 月に男性 1 名が契約、利用となるも、男性は「リハビリに専念したい」との理由でケアマネと相談の上、一旦休止となった。また昨年 1 2 月から利用休止中の女性利用者が 4 月から再利用になった。

2 利用者数

登録利用者（令和 8 年 3 月末現在） 59 名（長期利用休止者 1 名含む）

ア) 生活介護 59 名（男性 40 名 女性 19 名） 生活訓練 0 名

延べ利用回数人数（令和7年4月～令和8年3月） 事業日数308日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	26	27	26	27	26	26	27	25	24	24	24	26	308
登録利用者数	58	58	58	59	59	59	56	57	57	59	59	59	698
実績人数	52	52	52	53	54	52	52	52	51	52	52	52	626
月間延べ利用者数	435 (476)	457 (508)	432 (446)	455 (467)	425 (443)	431 (453)	437 (486)	407 (473)	374 (438)	412 (398)	403 (438)	453 (452)	5121 (5478)
一日平均利用者数	16.7	16.9	16.6	16.8	16.3	16.5	16.1	16.2	15.6	17.1	16.7	17.4	平均 16.6
加算のみ	4	5	4	8	5	6	5	7	3	5	9	9	70
送迎（往路）	415	428	404	432	401	407	414	379	352	391	375	426	4824
送迎（復路）	372	395	373	388	359	366	372	341	331	352	345	386	4380

※（ ）は前年度（令和6年4月～令和7年3月）実績

イ） 日中一時事業 登録利用者数 18名（令和8年3月末現在）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
102 (96)	109 (91)	108 (93)	126 (97)	103 (90)	102 (88)	100 (96)	92 (97)	89 (81)	78 (87)	84 (94)	98 (95)	1191 (1105)

※（ ）は前年度（令和6年4月～令和7年3月）実績

3 支援内容

- ・日々のデイ活動は利用者の主体性を尊重しながら利用日の午前午後に分けて一日の活動にメリハリをつけている。（ボッチャ・カラオケ・ウオーキング・散歩・オセロ・ストレッチ・歩行運動（歩行器・平行棒使用）・創作活動・将棋・パソコン等）
- ・身体介護では入浴（普通浴・特浴）は希望者のみ行っている。（現在男女合計21名）
- ・医療的ケアが必要な利用者への対応も看護師が常勤しており、安全配慮をしている。
- ・作業的な部分では利用者の体力や活動視野向上の為、折込やポスティング、リサイクル作業（シュレッダー・アルミ缶プレス・ペットボトルラベル剥がしやプレス）、清掃等を行い、作業に携わった利用者へは僅かではあるが工賃を支払い、保護者からも謝意を頂いている。
- ・利用者の特性を配慮、一日の活動を「見える化」してスケジュールボードを作成活用し、言葉による指示と物や形による指示の使い分けをし、ストレス軽減を図っている。

・主な年間行事として、

4月・・・お花見 5月・・・仁保川鯉のぼり 6月・・・ボッチャ大会
7・8月・・・夏祭り 9月・・・ハロウィンイベント
10・11月・・・紅葉見物他 12月・・・クリスマスイベント
1月・・・新春書初め 2月・・・ボッチャ大会 3月・・・ひな祭り

4 課題

- ① 冬場のインフルエンザ感染による利用者の欠席が今年度は多く、利用実績の落ち込みが大きかった。また、職員間に於いても家族の感染等による欠勤、それに伴う個々の業務負担増加も懸念材料として残った。
- ② 感染対策として、職員の手洗い・消毒励行、加湿器や気温湿度計による室内環境の改善に努める必要性を感じ、実行できる点は改善した。
- ③ 今年度は新卒対象者の契約がなかったが、中途契約が3名あり、区分等を踏まえても今年度の計画には及ばなかった。
- ④ 近隣地域での施設増もあり、新卒対象者の確保競争になっている感があり、支援学校との現場実習や進路担当との連携を密にしていく必要性を感じたと同時に、職員ひとり一人のスキルアップ、支援課題や内容についての職員間共有と改善を図りながら、今後を進めていく必要がある。また購入品等の値上げに伴う経費アップも課題。
- ⑤ 職員の高年齢化に伴う支援や介助の不具合が目立つようになり、職員の負担軽減策進め方、若年職員の確保が急務である。

5 改善策

- ① インフルエンザや新型コロナウイルス感染については、職員の予防接種・マスク・手洗い・消毒・室内の加湿や気温湿度管理・換気等をこれからも継続して行う。
- ② 新年度以降は来年の新卒対象者確保を目指し、現場実習の日数増加等積極的な受け入れを行い、学校・保護者との関係性を持ち、アピールしていく。
- ③ 利用者増加のみではなく、若年層の職員確保も重要事項として考慮し、事業所の今後を見据えた対応が必要になる。そのためには、大学生の教育課程での体験実習を含み、働きやすい環境や人間関係、福利厚生等を含めた人材採用活動にも力を傾注する必要がある。
- ④ 職場環境の改善整備や利用者スペースの確保と改善、職員ひとり一人の意識改善、業務や支援に対する取り組み姿勢、コスト削減(必要な部分への投資は別)等、改善していく問題点は大いにあり、アス・ライフ全体としての問題や課題、改善点でもある為、一つ一つ解決できるよう努力したい。

6 その他

送迎車両の走行距離増に伴う修理や部品交換等が今後も増える懸念あり。

2-2

事業名：アス・ワーク 就労継続支援B型事業（就労移行支援事業）

1 概要

昨年10月に就労移行支援を廃止し就労継続支援B型のみでのスタートとなり、事業が一本化されたことによる利用者への支援方法の統一化、職員業務分担の明確化がなされ、とても良い効果が表れた。

また、災害や集団感染もなく、安定して利用していただくことができ、作業面においてもトラブル等もなく支援を行ってきたが、退所者があったことなどから当初の計画通りの実績を出せなかった。

2 利用者数

登録利用者数（令和8年3月現在）

・就労継続支援：12名 ※1日平均利用者数 10.9名

延べ利用回数人数（令和7年4月～令和8年3月 事業日数：257日）（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就労継続	265 (267)	253 (260)	272 (226)	269 (264)	217 (242)	223 (248)	229 (282)	213 (277)	217 (245)	205 (247)	213 (254)	235 (248)	2,811 (3,060)

※（ ）は前年度（令和6年4月～令和7年3月）実績

3 支援内容

多様な利用者の特性や適性に応じるため、屋外における除草、草刈、剪定等粗大な動きを必要とする活動と、室内における部品組立、電線加工、通販製品計量・袋詰、シール貼等微細な動きを必要とする活動の両面を提供できるよう、各種事業所や地域からの発注を受けるよう努力している。また、レクリエーション活動として、8月に事業所でBBQとかき氷、10月に周南市動物園とホテルでのブュッフェ、3月に弁当を注文し維新公園へ出向き花見を行った。

梱包作業



テープ巻き作





ポスティング



屋外作業

4 課 題

- ① 新規利用者の獲得
- ② 経営・運営の安定化
- ③ 働きやすい職場環境（利用者・職員）

5 改善点

- ① 市内 B 型事業所が増え続ける中での利用者獲得は大変厳しい状況だが、事業所の個性（良いところ）をしっかりと把握し、支援学校や相談支援事業所への営業活動を進めていく中で、多様な特性のある利用者をしっかりと受け入れるための体制づくりが必要。
- ② 収入面においては、4 月より定員を 20 名へ変更し、基本報酬額が増額となる。その上で、利用者の利用率を上げることを皆で考え、個別支援計画を基本にそれぞれの職務で支援してもらう。支出面においては、利用者支援で必要な経費と作業で必要な経費の見直しを行い、無駄な経費を削減していく。
- ③ 働くという環境においては、利用者も職員も同じ部分が多くあり、所得（工賃）向上に向けた取り組みを検討していく中で、リスクやストレス軽減を考慮した作業量の調整が必要。

アス・ワーク 外



レクリエーショ



6 その他

○ 作業収入及び工賃実績

・作業収入

作業種別	作業種別収入
屋外環境整備（草刈・剪定・除草・洗車・随時請負）	1,177,510
情報紙ポスティング(サデー-西京・ほっふ)	1,321,282
室内作業請負（杉山製機・大熊工業・K's・随時請負）	3,535,843
作業収入合計	6,034,635

・工賃実績（平均工賃：27,227.0円）

作業種別	作業種別工賃実績
屋外環境整備（草刈・剪定・除草・洗車・随時請負）	395,522
情報紙ポスティング(サデー-西京・ほっふ)	587,755
室内作業請負（杉山製機・大熊工業・K's・随時請負）	2,102,477
その他（清掃・皆勤・福利厚生費）	736,950
工賃合計	3,822,704

2-3

事業名：放課後等デイサービス（なかぞのフォア・アス）

- 概要** 障害のある子どもたちが、日常生活を通して基本的な生活習慣や人・物とのかかわり方を習得することで、社会適応をよりスムーズにできるように支援していくことを目指した事業を進めている。また、障害の特性を十分に理解した上で、様々な活動を設定し、利用している子どもたちに経験を積めるようにしている。そのためには、子どもたちがより活動しやすい環境づくり、職員の支援技術の向上が必要だと考え、環境を整え、研修などを実施してきた。子どもたちがデイサービスを利用することで、保護者・家族の療育負担を軽減し、子育て支援の一翼を担ってきた。



2 利用人数 登録利用数（令和 8 年 3 月末）

60 名（男子 50 名、女子 10 名）

延べ利用数（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月まで 事業日数： 290 日）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
286	277	302	310	253	278	300	235	281	236	243	287	3288
(292)	(276)	(272)	(302)	(279)	(273)	(315)	(266)	(274)	(247)	(249)	(274)	(3319)

※（ ）は前年…令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月までの実績

3 支援内容 令和 7 年度は 13 名の新規利用者が入られた。支援マニュアルを年 6 回、支援者で確認し、安全に子どもたちが過ごせるように職員間で共有を図った。また、子どもひとり一人に『支援シート』を作成し、職員の支援内容に隔たりがないように心がけた。子どもひとり一人に合わせたスケジュールを活用し、能力に合わせた課題の提示、創作活動や遊びの提示を実施した。

学習の場面では、支援学校で取り組まれている学校の宿題やフォア・アスの課題を取り入れ、集中して行える環境や学習能力の向上につながるよう、配慮をしてきた。季節に合った工作を用意し、季節の移り変わりを意識できるように内容を企画した。保護者へは、送迎の引継ぎ、連絡帳の活用、個別支援計画の見直し時の面談、担当者会議への出席などを通して、支援内容の確認を行った。また、ミーティングや日々の昼礼を通して、支援内容や保護者の思いなどについて職員間で連携を図った。また、虐待防止への意識を高めるため、資料の配布や研修の伝達などを行っている。また、山口総合支援学校への見学を通して、フォア・アスを利用されている子どもの様子や具体的な支援内容などを学ぶ機会になっている。

外食活動…マクドナルド、すき家、ほっともっと、ジョイフル

公園等… 新亀山公園、維新公園、井上公園、仁保の道の駅、美東道の駅
河原谷公園、藤尾山公園、中央公園など
電車体験

お買い物…ウォンツ、コスモス、ドラッグストアモリ、シャトレーゼ、アルク
など

室内活動…防府市青少年科学館、交通センター、身障プール、身障者体育館等



4 課題

- ・既存の利用者の卒業に伴う退所、他事業所への移行などその年によって多い、少ないがある為、効率良く新規利用者を受け入れる児童に添った支援が課題とされる。

5 改善点

- ・マンツーマン対応が必要な利用者に対し、手厚い支援が行えるよう人員体制を整え安定したサービスを提供できるよう取り組む。
- ・集団活動などマンネリ化しない為に日々の業務の振り返りや職員ミーティングで意見交換を行い、充実したサービスを提供することに努力する。

6 その他

日中一時支援事業

概要 希望者が年々増加の傾向にある。時間もやや延長傾向にある。原則の時間を保護者へお伝えしつつ、対応できる範囲で保護者の就業などの支援へ繋げている。

以前は、放課後等デイサービスの利用上限日数を超えた場合に、日中一時支援のみの利用へ切り替えを行っていたが、山口市の放課後等デイサービスの全体に流れとして、放課後等デイサービスの利用上限日数の範囲内での利用を保護者へお願いすることとし、日中一時支援のみの利用への切り替えは原則として行っていない。

利用人数 登録利用数（令和 8 年 3 月末）
60 名（男子 50 名、女子 10 名）

延べ利用数（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月まで 事業日数：290 日）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
15 (23)	2 (8)	1 (5)	26 (30)	12 (20)	9 (11)	10 (4)	7 (5)	22 (24)	15 (15)	2 (3)	26 (26)	147 (174)

※（ ）は前年…令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月までの実績

2-4

事業名：放課後等デイサービス（おおいちフォアアス【1F】）

1 概要

おおいちフォア・アスは10年目を迎えた。市内の小中学校や支援学校に通っている児童が利用している。子どもたちが好きなことや興味のあることを通して「できた」という経験をし、人との関わりの中でいろいろな経験を積むことで、将来的に地域で過ごすことに繋がるように支援している。

利用者数は前年度より全体的に増やしていたが、体調不良だけでなく学校に行けなくなった児童の欠席も多く、予定よりも利用者減となった。

2 利用者数

登録利用者数（令和8年3月 現在）

51名（男子39名 女子12名） ※1日定員10名

延べ利用者数（令和7年4月～令和8年3月 事業日数：296日）

（単位：名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
228	219	221	252	212	196	209	177	209	184	160	216	2483
(239)	(244)	(231)	(255)	(221)	(212)	(226)	(209)	(207)	(203)	(197)	(228)	(2672)

※（ ）は前年度実績になります。

3 支援内容

<学校がある日>

- ・宿題や個別課題の支援
- ・個別活動…担当児童に合わせた活動を行う。
工作、外遊び、パソコン、タブレットなど

<学校がない日> 土曜日・長期休み

- ・集団活動…外出、買い物、外食、クッキング、電車・バス体験など

☆主な外出先…（山口市）維新公園、大殿公園、藤尾山公園、新亀山公園、中央公園、一の坂交流広場、井上公園、山口県立博物館、交通安全学習館、仁壁神社、TYS 見学、新山口駅見学、身障センター体育館・プール、こんこんパークなど

（萩市）あそぼう舎、陶芸の村公園

（宇部市）生活安全ふれあい館

（防府市）桜本児童遊園、けいりんパーク、メバル公園、ソーラー

ル

(美祢市) 秋吉台家族旅行村、美東道の駅
(周南市) 徳山動物園

☆買い物…コスモス、ダイソー、セリア、ザ・ビッグ、新鮮市場、クスリ岩崎チ
ェーン、ゆめタウン、こことなど

☆外食活動(テイクアウト含む)…ジョイフル、ほっともっと、ガスト、マクドナ
ルド、どんどんなど

☆その他…室内ゲーム、みらいフォア・アスと合同で縁日

<その他>

・保護者支援

送迎時の申し送りや連絡帳を活用し、保護者に子どもの活動内容や様子を伝え、コミュニケーションを図り、支援の方針について確認したり、支援内容を臨機応変に変更や工夫を行い、家庭の療育状況も把握しながら、情報共有できるようにしている。保護者から子どもの成長の中で起こる悩みなどの相談を受けるケースも増えているため、随時職員間で共有し、対応方法を検討している。

4 課題

① 待機児童の受け入れと利用児童の都合による欠席への対応

学年が上がり、自宅にて一人で過ごせるようになってきた児童や部活動に参加する児童も増えている。それに伴い年度初めの予定より利用を減らしたり、休止する子どもも増えてきた。すぐに利用終了にすることは保護者も不安があり、しばらく契約を継続するように対応しているが、待機児童の解消や安定した運営のためにはデメリットにもなる。

② 不登校、行き渋りのある児童への対応

学校生活の不安から不登校や行き渋りが増えており、学校に行っていないがデイを利用できないだろうかという要望も増えている。

現在、行き渋りがあったり、早退を希望する児童への対応については行っていないため、その場合はデイサービスは当日欠席扱いとなっている。休みが続くようであれば利用したい、早退した場合に仕事で学校へ迎えに行けないといった保護者からの要望もあるため、対応していく必要もあるが、職員の負担を考えると実施に踏み切れていない。

③ 学校送迎への対応

おおいちフォア・アスは支援学校だけでなく、市内の地域の小中学校からの利用も多い。学校や学年によって下校時間が異なるため、学校への送迎業務がひっ迫している。また、学校職員の人数も限られているため、教室まで迎えに来てほしい、時間を変更してほしいなど学校からの要望に対応する必要もある。運転手を雇用し、少し解消されているが、正職員が子どもの支援と共に送迎業務を行っているため、

負担は大きい。また、車内での見守りが必要な子どもも多く、パート・アルバイト職員に添乗してもらうことも増えている。送迎が重なった場合は事業所内の職員数も減るため、子どもの安全管理に不安を感じることもある。

④ 職員の確保とスキルアップ

パート職員の募集を行っているが、応募がない状況で、子どもの支援を安定して行うことが難しくなっている。また、現在正職員1名が慢性頭痛により令和7年8月から休んでいる状態である。それにより正職員の業務負担が増えているのも現状である。安定した支援を行うためにも、ハローワークや地域情報誌への求人募集を継続していきたい。

また、子どもたちそれぞれに合った支援を行っていくためには、職員のスキルアップを行い、より良い支援を行うことでモチベーションも上がると考えられる。そのためにも事業所内外の研修に参加できる体制をつくっていききたい。現状は職務が忙しく必要な外部の研修を受けることが難しい。

5 改善点

- ① 子どもによって事情も様々で、どの部分を優先的に対応していくかの判断が難しいが、ある程度のルールを決めていき、待機児童の解消や安定した運営に繋げていきたい。
- ② 職員の余裕がある際に、学校のない土曜日の利用をしてもらい、社会との繋がりがもてるように対応をしている。
今の子どもたちの状況に合った支援も必要であり、受け入れに向けて事業所内で体制づくりを検討していきたい。
- ③ 安定した送迎業務に繋げるために、子どもを支援する職員の確保を行っていく。
- ④ 職員に大きな負担がかかることがないように、働きやすく、支援で困った時には相談しやすい、お互いにコミュニケーションがとりやすい風通しの良い職場作りに努め、長期在職者の確保に繋げていく。職務の改善や流れを見直し仕事の効率を高めていく。

6 その他

【日中一時支援事業(児童)】

① 概要

共働きの家庭が増えている傾向もあり、放課後デイサービスと併用利用をすることで家庭の育児・療育負担の軽減を図りたいという声も挙がってきており、継続して利用の希望は多いのが現状である。特に、併用利用が多くなる時期は、7・8月と12月・1月、3・4月の時期に集中している。理由としては長期休業時(夏休み・冬休み・春休み)とその前後で学校が早く終わること(始業式、終業式、家庭訪問週など)や保護者の労働時間帯に合わせて利用の申し出が増えているためである。

日中一時単独利用児童には、職員配置を必ず1名つけなくてはならないという制約もあり、利用者数定員超過時の場合には、支援者不足になる可能性もあるため、調整も必須である。

② 登録利用者数（令和8年3月 現在）

51名（男子 39名 女子 12名）

延べ利用者数（令和7年4月～令和8年3月 事業日数：296日）

（単位：名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19	9	6	36	16	7	5	9	22	6	8	19	162
(20)	(11)	(5)	(32)	(15)	(13)	(7)	(5)	(26)	(13)	(10)	(21)	(178)

※（ ）は前年度実績になります。

【令和7年度 研修、見学一覧】

- ・令和7年度新人研修及び職員研修（法人内） 虐待防止研修
- ・山口総合支援学校 見学
- ・救命救急講習（7月）
- ・令和7年度山口市地域自立支援協議会第1回こども部会
子どもの権利擁護について
特別支援教育について

2-5

事業名：放課後等デイサービス おおいちフォア・アス【2F】

（通称 みらいフォア・アス）

1 概要

みらいフォア・アスは7年目を迎えた。市内の支援学校や地域の学校に通う中高生が対象となっており、卒業後の進路に繋がるような活動も取り入れ、将来を見据えた支援を継続して行っている。（折り込み作業、ポスティング、アスワークへの体験等）

2 利用者数

登録利用者数（令和8年3月 現在）

28名（男子 22名 女子 6名） ※1日定員 10

延べ利用者数（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月 事業日数：296 日）

（単位：名）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
183	178	183	197	212	177	193	155	175	153	154	175	2135
(159)	(163)	(126)	(169)	(139)	(138)	(166)	(146)	(138)	(141)	(136)	(139)	(1760)

※（ ）は前年度実績

3 支援内容

子どもたちが安心して過ごすことができることを考えながら、一人ひとりに合わせたスケジュールを活用し、能力に合わせた課題の提示、創作活動や遊びを提案し実施することを心がけ、職員 1 名に対して子ども 1～2 人に関わる事で、個性や能力を引き出し、将来に繋がる支援を行っている。

<外出活動>

- ・主な外出先…（山口市）身障センター体育館・プール、きらら博記念公園、狐の足あと、交通安全学習館、維新公園、山口博物館
正田山公園、こんこんパーク
（美祢市）美東道の駅、サファリランド、遊園地、秋吉台展望台
カルストロード、さくら公園
（宇部市）宇部空港
（防府市）ソラル、防府天満宮、アスピラート、メバル公園
（萩市）陶芸の村、あそぼう舎、萩児童館
（山陽小野田市）花の海
（周南市）徳山動物園、美術博物館
- ・ウォーキング…一の坂川、維新公園、菜香亭、十朋亭維新館など
- ・外食活動（テイクアウト含む）…ほっともっと、マクドナルド、ジョイフル、コープすき家、ガスト、ココス、フードコート
- ・買い物…ウォンツ、コスモス、ダイソー、セリア、ザ・ビッグ、新鮮市場、フジグラン、ミスターマックス、西村商店、岩崎チェーン、コープなど

<室内活動>

- ・自立課題…学校からの宿題、プリント（国語、算数等）、作業課題（巧緻性の訓練）
- ・工作（制作活動）…写真立て、クリスマスリース、季節の工作
- ・室内レクリエーション…キャラクターさがし、ビンゴ大会
おいちフォア・アスと合同で縁日

<就労体験活動>

- ・アス・ワーク（就労継続支援B型）…ラベル貼り、袋入れ、バーコード貼り他
- ・地域情報誌（サンデー山口）の折り込み、ポスティング

＜家庭や関係機関との連携＞

送迎時の申し送りや連絡帳を活用し保護者に子どもの活動内容や様子を伝えたり、コミュニケーションを図り支援の方針について確認したり、支援内容を必要に応じて変更や工夫を行い、家庭の療育状況も把握しながら情報共有できるようにしている。

また、サービス提供時間前に昼礼を行い、その日の子どもの変化や行動、保護者や学校からの情報などを共有し、子どもの細かな変化をとらえ、柔軟に一人ひとりがフォローしていけるようにしている。

4 課題

① 利用児童の特性の理解

中高生になると、身体も大きく、力も強くなってくる上に、思春期を迎え、いろいろなことに興味をもつ多感な時期でもあるがゆえに、今までとは違った課題も出てきている。

② 個々の能力に合った課題や作業の充実

子どもの能力に合わせた課題や作業を充実させることで、子どもたちができることを増やしていき、卒業後を見据えた支援に繋げていきたい。

③ 引継・移行支援について

児童を受け入れる際に個人の情報共有や引継ぎは必要不可欠である。学部が上がることで環境の変化や、思春期に対する理解やフォローは必須であり、その中でこれまでの個人の情報はとても重要。落ち着いているからと受け入れ、様々な環境の変化で他害や物損を起こし、不登校になった児童もいる。

④ 安全管理の仕方

毎日の買い物活動や長期休みの外出活動など、外出する機会が多い。突発的な行動がみられる子どもも利用しており、安全に外出できるように職員が必ず一緒に行動することを決めているが、走って逃げる子どもに追いつけなかったり、見失ってしまうこともあった。

⑤ 現場実習時の利用減少

高等部になると現場実習が入るため、毎年6月、10月～11月は利用が減少する。

⑥ 職員の確保

人員配置上の職員数は満たしているが、様々な特性を持った子どもたちを支援する上で職員が必要だと感じる場面も多い。利用者の割合は男子の方が多く、安全に対応するには男性職員が適切だと感じているが、現状は男性職員の数が少なく、女性職員が対応せざるを得ないこともあり、負担が多くなっている。

5 改善点

- ① 様々な障がいを持った子どもたちが、同じ場所で過ごす中で、トラブルが起これることもあるが、将来を見据えて、お互いの個性を分かり合えるように、活動や遊びをとおして理解を深めていきたい。そのためにも事業所内外での研修を含め、職員全体のスキルアップを目指す。
- ② そのためにも、日頃から子どもの状況をしっかりと把握し、家庭や学校とも情報共有しながら、子どもに合った課題や作業を準備していきたい。また課題や作業についての情報も様々なところから情報収集し、子どもたちに提供していきたい。
- ③ 負担や起こり得るであろう弊害を予想することで防げることがあり、受け入れる側としては少しでも負担を軽減し、安心して利用できる環境を整えたい。その為には会議の場を設けたり、紙面での情報提供を徹底したりする必要がある。
- ④ その都度、原因を究明し、対応を考えているが、職員の意識の問題が関係していることもある。職員間で振り返りを行いながら、子どもたちの安全管理について共通理解を行っていきたい。
- ⑤ 学校からも“実習中のデイサービスは基本的に利用を控えるように”と言われており、仕方がないことではあるが、利用者が減ってしまうことは事業所としてはデメリットである。年間計画の中で対応しておくことが大切である。
- ⑥ 子どもたちの安全と職員の負担を考えると男性職員の確保も必要であると感じる。引き続き、ハローワークや地域情報誌への求人募集を行っていくと共に職員間でしっかりと役割分担を明確にし、安全に過ごせるようにしていきたい。

6 その他

【日中一時支援事業(児童)】

① 概要

共働きの家庭が増えている傾向もあり、放課後デイサービスと併用利用をすることで家庭の育児・療育負担の軽減を図りたいという声も挙がってきており、継続して利用の希望は多いのが現状である。特に、併用利用が多くなる時期は、7・8月と12月・1月、3・4月の時期に集中している。理由としては長期休業時(夏休み・冬休み・春休み)とその前後で学校が早く終わること(始業式、終業式、家庭訪問週など)や保護者の労働時間帯に合わせて利用の申し出が増えているためである。

日中一時単独利用児童には、職員配置を必ず1名つけなくてはならないという制約も

あり、利用者数定員超過時の場合には、支援者不足になる可能性もあるため、調整も必須である。

② 登録利用者数（令和8年3月現在）

28名（男子 22名 女子 6名）

延べ利用者数（令和7年4月～令和8年3月 事業日数：296日）

（単位：名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15	2	2	12	6	7	2	2	10	9	2	13	82
(11)	(2)	(1)	(15)	(10)	(6)	(3)	(3)	(14)	(9)	(1)	(12)	(87)

※（ ）は前年度実績

【令和7年度 研修、見学一覧】

- ・救急救命講習 7月
- ・山口総合支援学校 見学
- ・令和7年度新人研修及び職員研修(法人内) 虐待防止研修
- ・令和7年度山口市地域自立支援協議会第1回こども部会
子どもの権利擁護について
特別支援教育について

2-6

事業名：介護保険通所介護・介護予防通所介護事業（大市デイサービスセンター）

1 概要

新入社員2名を迎える事で、サービス提供時間を増やし、支援内容の見直しを行う事ができた。サービス提供時間を増やしたことで売上増に繋がり、支援内容は関わる時間を増やし、個別機能訓練を充実させることで利用者様の満足度を上げる事ができた。来年度も継続できるよう、職員の働きやすさを重視する。

2 利用者数

登録利用者数（令和8年3月現在）

- ・介護保険通所介護 : 17名
- ・介護予防通所介護 : 5名
- ・合計 : 22名

延べ利用回数（令和7年4月～令和8年3月）

（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	169 (183)	182 (190)	178 (157)	194 (152)	179 (159)	180 (166)	164 (168)	142 (166)	158 (168)	146 (176)	143 (142)	182 (153)	2,017 (1980)
介護予防	50 (36)	51 (32)	40 (24)	48 (22)	38 (29)	44 (27)	51 (51)	48 (49)	52 (48)	54 (56)	38 (44)	34 (39)	548 (457)
合 計	219 (219)	233 (222)	218 (181)	242 (174)	217 (188)	224 (193)	215 (219)	190 (215)	210 (216)	200 (232)	181 (186)	216 (192)	2,565 (2437)

※（ ）は前年（令和6年4月～令和7年3月）実績

3 支援内容

年間行事や散策への促し、脳トレプリント、創作、入浴サービスを行う。他事業所間との連携を取り、安心、安全に在宅生活を送れるよう支援する。

レクリエーション

- 1月：初詣（今八幡宮）
- 2月：節分
- 3月：お花見（萩しーまーと・平川河川敷・一の坂川周辺）
- 3月：ぼた餅、桜餅作り
- 5月：薔薇鑑賞（宇部空港）
- 8月：夏祭り
- 9月：おはぎ作り
- 11月：紅葉狩り
- 12月：クリスマス会





4 課題

- ① 利用率を上げ、継続的な利用を目指す
- ② 働きやすい職場作り

5 改善点

- ①7年度は入院、施設入所、亡くなられる方が多かった。体調変化を見逃さないよう、一人一人の健康状態、現状把握に努めたが、継続利用という結果は残せなかったように感じる。高齢者故の難しさもあるが、関係事業者と連携を取りながら支援を行っていく。

来所したいデイサービスとは何かを職員と考えていく。考える事で利用者様の希望は何なのか、それを実行するためには何が足りないのかを整理し、利用者様の満足度を上げるとともに職員のスキルアップを目指す。受け身ではなく、気付ける職員を増やす事で安心して過ごせるデイサービスにする。

- ②今年度もコミュニケーションを重視し、報連相を徹底する。研修にも参加しやすい体制作りを行う。

現在設置している特浴は職員の腰に負担がかかるタイプで、腰痛を悪化させている職員が増えてきた。助成金申請を行っているが希望は通っていない。今年度も助成金申請を行うが、年齢が上がってきている職員が安心して働けるよう購入も考えていきたい。

6 その他

介護体験実習生受け入れ人数

山口県立大 4名

ボランティア年間延べ人数

132名（麻雀）

1名（クリスマス会）

3. 【障害者(児)および高齢者の居宅訪問介護サービス事業】

3-1

事業名：居宅介護事業(障害者自立支援) アス・ヘルパーステーション

1 概要

〔障害者居宅支援〕

障害福祉サービスでは、生活全般を支援することが多く、年齢や障害の種類によってサービス内容・時間はそれぞれですが、利用者が住み慣れた地域でその人らしく生きるために生活のしづらさを理解し支援することを大事にしています。

2 利用者数

ア) 居宅介護

登録利用者数 (令和8年3月末)・・・9名

延べ利用回数(令和7年4月～令和8年3月事業日数：365日) 単位:名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
52 (120)	51 (138)	51 (134)	55 (143)	52 (132)	56 (129)	55 (137)	40 (58)	48 (58)	36 (60)	27 (59)	22 (64)	545 (1232)

※ () は前年(令和6年4月～令和7年3月)実績

イ) 重度訪問介護

登録利用者数 (令和8年3月末)・・・1名

延べ利用回数(令和7年4月～令和8年3月事業日数：365日) 単位:名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4 (4)	3 (3)	2 (2)	4 (2)	2 (2)	3 (2)	2 (3)	3 (1)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	3 (2)	32 (27)

※ () は前年(令和6年4月～令和7年3月)実績

ウ) 同行援護

登録利用者数 (令和8年3月末)・・・9名

延べ利用回数(令和7年4月～令和8年3月事業日数：365日) 単位:名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
81 (66)	70 (71)	76 (64)	84 (74)	75 (73)	81 (58)	83 (96)	73 (79)	75 (103)	71 (79)	45 (91)	72 (78)	886 (932)

※ () は前年(令和6年4月～令和7年3月)実績

エ) 移動支援

登録利用者数 (令和 8 年 3 月末)・・・9 名

延べ利用回数(令 7 年 4 月～令和 8 年 3 月事業日数：365 日)

単位:名

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
28 (32)	27 (35)	32 (33)	30 (32)	35 (29)	18 (33)	43 (32)	25 (19)	28 (21)	20 (24)	23 (18)	30 (25)	339 (333)

※ () は前年(令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)実績

3 支援内容

・居宅介護

自宅で入浴、排せつ、食事の介護などを行う。

掃除・洗濯・調理・買い物などを行う。

・重度訪問介護

重度の肢体不自由、知的障害者により行動上困難であり、常に介護を必要とする人に
自宅で入浴、排せつ、食事の介護など行う。

・同行援護

視覚障害などで移動が困難な人の外出時に同行し、移動に必要な情報提供や移動の援
護、必要な介護（排泄、食事など）を行う。

・移動支援

屋外の移動が困難な障害者に対し、買い物や余暇活動などの外出支援を行う。

4. 課題 (P27 福祉サービス/介護保険ともに共通)、 **5 改善点** (P27 共通)、 **6 そ
の他** (P27 共通)、

3-2

事業名：訪問介護事業(介護保険・介護予防) アス・ヘルパーステーション

1-(2)概 要〔高齢者訪問介護〕

利用者が住み慣れた地域で可能な限り安心して生活が続けていけるようお手伝いいたしま
す。より良いサービスを行うため、虐待防止や倫理の研修、身体拘束など職員の研修を行
っています。明るい笑顔、丁寧な言葉で接することを心掛けています。ヘルパー自身の健
康管理にも気を付けています。

2-(2) 利用者数

ア) 介護保険・介護予防(令和8年3月末)

登録利用者数 (令和8年3月末) 要介護・・・14名
要支援・・・14名

延べ利用回数(令和7年4月～令和8年3月事業日数:365日)

単位:名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	192 (192)	217 (192)	227 (234)	272 (171)	277 (181)	253 (187)	267 (167)	246 (217)	237 (211)	256 (210)	230 (192)	166 (214)	2840 (2368)
介護予防	67 (55)	67 (40)	60 (51)	68 (66)	68 (70)	80 (53)	88 (42)	73 (62)	78 (50)	67 (72)	86 (57)	97 (62)	899 (680)
合計	259 (247)	284 (232)	287 (285)	340 (237)	345 (251)	333 (240)	355 (209)	319 (279)	315 (261)	323 (282)	316 (249)	263 (276)	3739 (3048)

※下段()は前年(令和6年4月～令和7年3月実績)

3-(2) 支援内容

・訪問介護

自宅での入浴、排せつ、食事の介護などを行う。

掃除・洗濯・調理・買い物などの日常生活を総合的に支援し、地域で生活が可能となるように支援する。

4 課題 (福祉サービス/介護保険ともに共通)

- ①利用者数の減少
- ②職員間の情報共有不足
- ③人材不足

5 改善点 (福祉サービス/介護保険ともに共通)

①介護保険利用者の方で、入院から施設入所になる方が多く利用減となった。独居の方が多く、家族も遠方などで支援が難しく施設を選ばれていた。施設を選ばれた方は、体調不良や病気の悪化、不安感からの訴えが多かった。高齢者ゆえの難しさではあるが、一日でも長く自宅で過ごしていただくためには、利用者の普段の体調を把握し、体調変化を見逃さないようにする。また、関係事業所との連携も取り、安心して在宅生活が継続して頂け

るようにする。不安感が強い方は、少しでも言葉に耳を傾ける時間がとれるようにする事で安心して生活できるようにする。

②ADL の変化、家族との関係など細かな情報が多く、職員、登録ヘルパー間で伝達がうまくいかない時がある。原因は、お互いが伝えたつもりになっている事が多い。改善策を考え実行しているが、改善できたとはまだはいかない。日々、声を掛け合う事で共有していく。

③令和 7 年度は管理者、サービス提供責任者が変わり、登録ヘルパー達を不安にさせた。現在はコミュニケーションを心がけ、信頼関係が築けてきている。

登録ヘルパー1 名が退職し、1 名が家庭の事情で休職されている。新しく入られた方が 1 名いた。継続して職員を募集しているが雇用には繋がっていない。

求職者と話ができる面接会などで、1 人で訪問するのが不安という声が多かった。支援体制がある旨伝えるが、伝えきれていない事もある。求職者が何を求め、どんな支援が行えるのかを整理し、雇用に繋げる。

6 その他（福祉サービス/介護保険ともに共通）

- ・ヘルパー会議

年 6 回開催（5、7、9、11、1、3 月）

- ・外部研修

4 部会研修（7、2 月）

訪問部会研修（9、11 月）

BCP 訓練参加（11 月）

- ・助成金

千寿会で助成金を頂き、近辺の訪問介護どきの移動用特定小型原付 2 台と血圧計を購入する。



4. 【障害者についての啓発に関する事業】

4-1

事業名：講師派遣事業

概要 障害者に対する社会の正しい認識を高めるため、各種団体・小中学校・施設などの講演への講師派遣を行った。

〈派遣先〉

・山口市立大内南小学校・宮野地域交流センター・山口コメディカル学院・白石地域交流センター・山口市立鑄銭司小学校

Ⅲ. その他の活動（社会貢献）

(1) 「介護等の体験」実習生の受け入れ

教育職員免許法の特例にもとづく山口県社会福祉協議会の依頼により、「介護等の体験」実習生など年間を通して受け入れた。

今期は、合計 13 名（山口大学・山口県立大学）の実習生を受け入れ、令和 6 年 5 月～令和 6 年 11 月の間に、アス・ライフ生活介護事業及び大市デイサービスセンターにてそれぞれ月曜から金曜まで各々 5 日間の実習をおこなった。

(2) ボランティアの受入

今期は、大市デイサービスセンターにおいて麻雀ボランティア等（生活介護利用者でもある。）年間 133 名を受け入れた。アス・ライフにおいてはクリスマスなど白石地区の方を中心に 16 名のボランティアを受け入れそれぞれ交流を図った。

(3) ボランティアの参加及び行事協力

- 4 月 ・山口ユネスコ協会総会
- 5 月 ・キラリンピック全スポ予選大会審判
- 5 月 ・福岡ボッチャ大会審判
- 7 月 ・山口市ユニバーサル検討委員会
- 8 月 ・SAGA パラスポ「ボッチャ大会」審判
- 8 月 ・周防大島島中中学校ボッチャイベント
- 9 月 ・日本ボッチャ協会西日本九州地区会議
- 10 月 ・山口県スポーツ・リクレーション大会ボッチャスタッフ
- 11 月 ・米子ボッチャ大会審判

- 12月 ・レノファ山口女子チーム感謝デーイベント
- 12月 ・下関ボッチャ大会審判
- 2月 ・山口県交流ボッチャ大会審判
- 2月 ・退公連山口支部ボッチャ審判
- 3月 ・山口市ユニバーサル検討委員会
- 3月 ・博多ボッチャ大会審判



Ⅵ. 虐待防止委員会

(1) 虐待防止・身体拘束適正化委員会の開催

アス・ライフ虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会は利用者に対する虐待、身体拘束を防止するため、約2カ月に1度の委員会を開催している。

令和7年度は、5月、7月、9月、11月、1月、3月の部門会議後に実施している。

内容は、各事業所の事例と取り組み・虐待防止チェックリストの実施報告・虐待防止に関する指針・身体拘束の適正化のための情報共有等についてである。

Ⅴ. 法人の運営に関する事項

(1) 令和7年度理事会・評議委員会の開催

○理事会

令和7年 5月23日	第1回理事会
令和7年 6月19日	第2回理事会
令和7年10月14日	第3回理事会

○評議員会

令和7年 6月19日	第1回評議員会
令和8年 3月25日	第2回評議員会

特記事項

令和 6 年度最終補正予算について。令和 6 年度事業報告について。令和 6 年度決算・財産目録、監査報告について。役員報酬額について。・評議員選任解任委員 4 名の選任について・理事 6 名、監事 2 名を評議員会に推薦する件について・評議員 7 名を評議員選任解任委員会に推薦する件・定時評議員会の開催日について。・次回理事会（令和 7 年 6 月の第 1 回評議員会終了後）の招集通知省略、及び決議省略（書面決議による）について・社会福祉充実残額計画について・理事長（代表理事）の選定について・理事 6 名、監事 2 名の選任について・定款細則（案）について・最低賃金の改定による給与規程の改定について・理事長職務執行状況について・山口市指導監査室の指導監査報告について・生活介護事業所の虐待通報について・令和 8 年度事業計画（案）について・令和 7 年度補正予算（案）について・令和 8 年度予算（案）について・就業規則の改定について・経理規定の改定について・アスワークの实地指導について

・おおいちフォア・アスの实地指導について・中央競馬馬主社会福祉財団からの車両補助金について・虐待防止委員会の実施報告について

以 上